

## クビアカツヤカミキリを府内で初確認しました

全国でサクラ、モモ、ウメ等バラ科樹木に甚大な被害を及ぼしている特定外来生物のクビアカツヤカミキリが、令和6年7月に府内で初めて確認されました。令和7年2月時点で、京都市西京区、福知山市三和町、向日市寺戸町で計52本の被害木が確認されています。

本種により、農業被害の他、公園や街路、社寺及び観光地のサクラやウメへの被害が懸念されるため、被害拡大防止に向けた早期発見・早期防除が重要です。

写真1-3-8 成虫



写真1-3-9 フラス



写真1-3-10 被害木



### <クビアカツヤカミキリの特徴>

- 体長は約2～4cm
- つかまると強い臭いがある液体を排出する
- 年間移動距離は2～3km
- 1個体あたりの産卵数は平均300個（最大1,000個）
- 幼虫は樹皮下へ食入後、樹木の中で2年かけて成長し、蛹を経て、最終的に、5月から8月頃にかけて成虫となり、幹の外へ脱出する
- 幼虫が成長する際に、樹木の内部を食い荒らし、枯死させる

図1-3-4 クビアカツヤカミキリの生活環



### <府民の皆様へ>

本種と疑われるカミキリムシやフラス(幼虫のフン・木クズ)を発見された場合、速やかに殺処分するとともに、被害木に対しては、防風ネットの巻き付け等の防除対策を実施し、お住いの市町村担当課又は府自然環境保全課まで通報いただきますようお願いいたします。

通報連絡先やクビアカツヤカミキリの詳細は府HP(二次元コード)をご確認ください。



図1-3-5 注意喚起のチラシ

